

第24期 日本学術会議 健康・生活科学委員会／臨床医学委員会  
少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会 議事録（概要版）

日時：2018年6月4日 14：00～16：00

場所：日本学術会議 5-A(2) 会議室

出席者：小松、寶金、井上、川口、正木、西村（記録）

傍聴：永瀬

欠席：岩崎

資料

- ① 「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」（24期）メンバー
- ② 「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」事前打ち合わせメモ
- ③ 健康・生活科学委員会分科会の設置について
- ④ 『学術の動向』特集2「これからの社会におけるケアサイエンスの構築に向けて」

検討事項

（1）分科会委員長および役員を選出

資料①をもとに、分科会メンバーが確認された。分科会委員長は、看護学を専門とする小松委員となった。分科会の幹事は、井上委員、西村委員が担当することとなった。

永瀬委員は、本委員会は傍聴者として参加したが、分科会委員となることとなった。

（2）ケアサイエンス分科会設置の経緯

- ・小松委員長より、資料②③をもとに、本分科会の目的と審議内容が確認された。
- ・本分科会は、第23期に看護学分科会が「ケアサイエンス」をキーワードとして2回のシンポジウムを開催し、これをもとに発出した『学術の動向』がきっかけとなり、寶金委員より分科会を作ることが提案された。この提案を受けて、看護学分科会で検討して設置案が出され、設置に至った。以上の経緯から、2つの委員会の所属となっている。

本分科会の審議事項としては、以下が挙げられていると報告された

- 1) 当事者主体のケア社会の構築に向けた横断的学術基盤形成
  - 2) 少子高齢社会を支える「ケアサイエンス」の教育・研究の在り方に関する提言発出
- 小松委員長からの説明を受けて、各委員より追加の説明が為された。

（3）これまでの議論

資料②「打ち合わせメモ」、及び『学術の動向』特集（資料④）をもとに、これまで行われてきた議論の概要について、西村委員から説明が為された。

小松委員長より、今後の方向性として、次の提案が為された。

- ・多学問や社会へ浸透させるためには、ケアサイエンスを社会に発信していく必要がある。  
その方法としてシンポジウムを、提言作成の前に行うことを予定したい。
- ・1年程度をかけて論議をし、2019年の半ばに骨子を作り、2009年の末から2020年の1月に提言を完成させることを目指したい。

論議しなければならないことは、下記の3点である。

- 1) ケアサイエンスの学的な位置づけを、社会にわかるように、多分野で議論を進める。
- 2) 社会が望んでいる新しい学問として、研究例、実践例を集積していき、実証的にケアサイエンスを見せていく。
- 3) ケアサイエンスをどのように教育に生かしていくかを検討する。

以上を受けて、委員間で今後の方向性について議論し、複数のケアサイエンスにかかわる具体的な研究や活動について議論すること、及びそれをもとに、シンポジウムを行うことが決定した。

#### 次回の分科会の話題提供

- ・小松委員：地域を健やかにしていく、スポーツ科学、高齢者の医学、看護学が参加した学際的な取り組みの例。藤沢市で行っているポピュレーションリサーチ。
- ・堀田氏：オランダの福祉について
- ・西村委員：マーサ・ヌスバウムの活動について

#### シンポジウムの予定

- ・ケアサイエンスの実装のために、リアリティのある話をプレゼンしてもらう
- ・候補は、分科会メンバー複数名と外部の人2名ぐらいとする。

#### 【次回の分科会】

日時：7月24日 10:00～12:00

場所：日本学術会議